

## 資料3 季刊「進路指導」の原稿について（令和3年度の資料）

令和3年9月2日

全国高等学校進路指導協議会  
中国ブロック事務局長 大森 洋之先生

公益財団法人日本進路指導協会  
会長 田中 壮一郎

### 機関誌「進路指導」（冬季号）のご執筆について（依頼）

初秋の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、日本進路指導協会発行の機関誌「進路指導」（冬季号）「学会だより」のご執筆につきまして、ご快諾をいただきありがとうございます。

つきましては、下記の要領でご執筆いただけますようお願い申し上げます。

#### 記

1. テーマ 「全高進だより・中国ブロック報告」
2. ページ数 組み上がり・・・4ページ
3. A, B 2種類の原稿の書式（フォーマット）について  
文字は、10.5ポイントの大きさでお願いします。  
◇ A(1ページ目) : 上部8行分が、題名、職名、氏名などを記入する部分です。  
9行目からの本文は、横書き2段組、19字×25行=475字、  
合計950字となります。  
◇ B(2ページ目以降) : 横書き2段組、19字×33行=627字、合計1254字  
となっています。
4. 文章の小見出しは、2行どりとし、1, 2, 3…などの番号を付けるようにお願いします。
5. 読みやすいものにするために、写真・図録・イラストなどをできるだけ多くするようにお願いします。また、一般の写真は、サイズによって異なります。  
(天地、左右の大きさを決めてください) 図表の場合は、何字何行かをご指定ください。
6. 文章は、原則として「である体」としますが、随筆などでは、「です、ます体」でもよいと考えます。  
◇ 文中の引用資料は、短い場合は「 」としますが、長文の場合(5行~6行以上)は、活字を落として、いわゆるカコミにします。(天地、左右ともワクの分を1行ずつ取るようにします。

7. 外国語は、片カナで書き、言語を（ ）に書いてください。

(例) パーソنز (F. Persons)

8. 引用文献は、そのままの形で、資料などは出所を必ず書くようにして下さい。

例えば、「我国では、職業指導が職業教育にしばしば混用された」(進路指導論) というように本文に書き、文末に次のように付記してください。

1) 藤本喜八『進路指導論』 1991 所収

9. イラストなどを入れる必要がある場合には、編集担当者に連絡して下さい。

10. 原稿の送付について

(1) 編集処理の関係上、原稿の送付は、原則としてメールで送付してください。

メール以外の場合は、連絡してください。

(2) 原稿締め切り日 令和3年10月29日(金)

(3) 担当者 関本 恵一

◎ 公益財団法人日本進路指導協会

〒 101-0054 東京都千代田区神田錦町 1-8-1 親和ビル 2 F

TEL 03-5280-7013

FAX 03-5280-7018

メールアドレス：[sekimoto@z-shinro.jp](mailto:sekimoto@z-shinro.jp)

# 全高進 ブロック研究発表

## 中国ブロック 活動・研究報告

中国ブロック事務局長

水島工業高等学校 教諭 大森 洋之

### 1 はじめに

中国地区高等学校進路指導協議会（中高進）は、広島県 84 校、岡山県 104 校、鳥取県 37 校、島根県 57 校、山口県 81 校、の 363 校が加盟している。中国ブロックの会長と事務局長は、2 年の任期で輪番とし、令和 3、4 年度を岡山県が担当、以下鳥取県→島根県→山口県→広島県と移っていく。

ブロック全体の活動は、年 2 回の理事会のみとなっている。理事会では中国 5 県の事務局長が出席し、毎年 6 月上旬に第 1 回、11 月下旬に第 2 回理事会を開催している。第 1 回では事業報告および会計決算報告、監査報告等一連の議案を審議している。第 2 回では、新規高等学校卒業生就職問題連絡会議報告についての審議を中心に行っている。毎回事務局校を会場に行われるのが通例だが、昨年度は書面開催、今年度はリモートによる会議とした。

### 2 中国ブロック各県活動報告

#### (1) 鳥取県

鳥取県高等学校進路指導研究会は、37 校が加盟し、年に 2 回の総会を開催している。本会では、鳥取県高等学校およびこれに準ずる学校の進路指導に関する諸問題について、研究・協議を行い教育の充実発展に資することを目的としている。

例年ならば 6 月の総会では、事業計画・予算はもとより、人権教育研究会と連携して入学試験時の公正選考をお願いする文書の送付を確認する。また 2 月の総会では、講演会を開くなどの活動を行っている。しかし、一昨年冬からの新型コロナウイルス感染症の拡大にともない、感染者数の少ない鳥取県といえども、昨年度と今年度は総会を開催することができない状態が続いている。

例年通り継続できたのは、「離職調査」である。労働局をはじめとして、同様の調査は行われているが、「卒業しても、つながりを保つ」ことを目標として継続している。

残念ながら、本県の離職率は全国平均値に比べて上回っているのが現状である。その理由として、仕事内容の不適合、職場への不適合が主なものであり、職業選択のミスマッチがおこっていると考えられる。若

年での早期離職は不安定な就労や生活につながる可能性が高いことはもとより、コロナ禍中、いったん離職すれば先を見通せないことも当然である。応募前職場見学もままならない状況ではあるが、今一度、慎重に職業選択ができるようサポートすべきとの確認をした。また近年、自己都合を理由に離職する卒業生の割合が増加する傾向にある。それぞれに様々な事情があることは推察できるが、できる限り回避できるようキャリア教育を充実させていくことが重要だとも確認した。

令和2年度は、前年に比べて求人数は13.5%、求人倍率が0.12ポイント低下したが、幸いにも内定率は前年と同じ99.8%(鳥取労働局 R3.4.30 発表)であった。今年度の求人数、求人倍率はともに微増し、本県の新規高卒者の就職状況は、今のところさほどコロナ禍の影響は見えないように思える。

しかし前述したように、先が見えない状況はしばらく変わらないであろう。今一度、生徒をしっかりと見つめなおさなければならないと考える。

## (2) 島根県

本県では高等学校・特別支援学校の進路指導に関する組織として、島根県高等学校等進路指導協議会(進指協)が置かれている。県内の高等学校と特別支援学校が連携し、進路指導及びにキャリア教育に関わる様々な事柄について研究協議を行い、改善

向上を図っている。

以前は、島根県高等学校進学指導協議会と島根県高等学校職業指導協議会の二つの組織があったが、平成24年度に統合され、進指協の進学部会・就職部会となった。

東西に長く離島と中山間地域を有する本県の特異性を考慮し、進学部会・就職部会とも県内を東部・中部・西部の3地区に分け、事務局を2年ごとに上記の地区の持ち回りで担当している。今年度の事務局は、全体を統括する進指協については松江南高等学校が担当し、進学部会は江津高等学校、就職部会は出雲商業高等学校が担当している。また、上部団体である中国地区高等学校進路指導協議会には進指協事務局が代表で参加している。

進指協の大きな活動に2年ごとに開催される研究大会がある。令和2年度は、邇摩高等学校で開催され、日本進路指導協会の千葉吉裕氏が「変わる社会、求められるキャリア教育」をテーマに基調講演を行った。

令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、常任理事会・総会が中止となったが、次年度の研究大会に向けて準備を進めている。

これらの活動を通し、生徒一人ひとりが進路を主体的に考え、自ら選んだ道に適應できるような取り組みを進めていきたいと考えている。

## (3) 山口県

本県の進路指導に関する組織は、山口県

高等学校進路指導協議会があり、令和3年度の会員校数は、公立高等学校49校、同総合支援学校12校、私立高等学校20校の計81校である。主な活動としては、年1回（11月）総会、講演、研究協議（進学、就職、特別支援の3分会）を行っている。

また、山口県教育委員会が定める「山口県教育振興基本計画2018年度～2022年度」に基づき、教育目標の『未来を拓く たくましい「やまぐちっ子」の育成』を達成するための手立てとして、毎年、「山口県教育推進の手引き」が示され、県下の学校はこの手引書に従い、進路指導の充実に取り組んでいる。このうち、令和3年度の一部の取組を紹介し、本県の報告としたい。

【主な取組】（担当：義務教育課/高校教育課/特別支援教育推進室）

主な取組と内容		実施主体
■ 組織的、系統的・計画的な進路指導の推進		
○ 中学校における進路指導の充実 ・ キャリア教育の視点に立った進路指導と進路相談等による子どもたちの状況に応じたきめ細かな支援の充実 ・ 「県市町キャリア教育連携・推進会議」の開催 ・ キャリア・パスポートの効果的な活用	県・市町・学校 (中)	
○ 進路指導計画による系統的な進路指導の推進 ・ 学校の特色や生徒の実態に応じた進路指導計画（進路シラバス）の工夫・改善	県・学校 (高)	
○ 個人別進路資料による継続的な進路指導の推進 ・ 一人ひとりの進路希望や学習の状況を集約した個人別進路計画（進路カルテ）の活用促進及び工夫・改善	県・学校 (高)	
○ 小学部から高等部まで一貫したキャリア教育の推進 ・ 個別的教育支援計画や個別の指導計画、キャリア発達段階表等の活用によるきめ細かな支援の充実	学校 (特)	
■ 進学支援の充実		
○ 中学校における進学支援の充実 ・ 進路選択のために全ての中学2年生に配布するキャリア・ガイドブック「夢サポート」の活用 ・ 高等学校等の教員を講師とした「進路説明会」の開催 ・ 高校生を講師とした「卒業生に学ぶ会」の開催	学校 (中)	
○ 大学入学者選抜改革に的確に対応した取組の充実 ・ 次代に求められる資質・能力をもった生徒を育成するためのセミナーや、最先端の研究に関するオンライン講座、教員対象の指導力向上セミナー等を実施	県・学校 (高)	

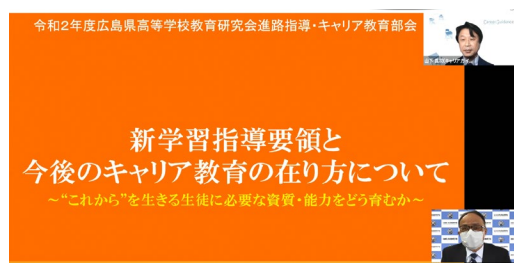
○ 進路意識の醸成や学習意欲の向上を図る進路指導の充実 ・ 「学校プランサポート」による学習合宿や学校間の連携など各学校のオリジナリティあふれる進路指導の工夫・改善 ・ 高校と大学等の連携による、県内大学等の魅力体験企画の実施	県・学校 (高)
○ 一人ひとりに応じた教科指導等の充実に向けた個別の指導計画の作成と活用 ・ 個別の指導計画に基づく、進路希望の実現に向けた、きめ細かな各教科等の指導や授業改善等の充実	学校 (特)
■ 就職支援の充実	
○ 就職ガイダンス、応募前職場見学、職場体験等による地域産業に対する理解の促進 ・ 地域に就職した卒業生や山口県にIターン等をした若者との座談会、地域や地域産業の魅力を知るためのセミナーの実施 ・ ICTを活用したオンライン面接や労働法制等の指導の充実 ・ 山口しごとセンターやハローワーク等によるガイダンス等の実施 ・ 生徒・保護者を対象とした県内企業就職セミナーとして、県内企業の現場見学、就職を希望する生徒等と県内企業採用担当者との面談を実施 ・ 応募前職場見学等の積極的な実施	県・市町・学校 (中高特)
○ 教員と就職サポーター等の連携による組織的な求人開拓や広域での迅速なマッチング ・ 県内就職促進統括マネージャーを中心とした求人情報等の一元管理と情報の共有化を通じたマッチングの促進 ・ 学校の進路担当者と事業所の採用担当者の情報交換を実施 ・ 校長や進路指導担当教員の企業訪問	県・学校 (高特)
○ 総合支援学校における職業教育・進路指導・就職支援の充実 ・ 教員と総合支援学校就職支援コーディネーター、就職サポーターとの連携による現場実習先や求人の開拓及び企業の障害者雇用に関する理解促進 ・ 生徒の就労意欲を高め、自立・社会参加に向けた職場体験・現場実習の充実 ・ 就業実践科・産業科を中心とした職業教育・進路指導の充実 ・ 学習意欲の向上や自己有用感を高めることができる「きらめき検定」（山口県特別支援学校技能検定）の充実	県・学校 (高特)

【出典】令和3年度山口県教育推進の手引き 山口県教育委員会発行

#### (4) 広島県

本県では、高等学校教育研究会のもとに、進路指導・キャリア教育部会が組織され、令和3年度は会員校は公立・私立校合わせて84校、会員数は296名である。県内を

6支部に分け、各支部での研修会、公開研究授業や例年11月に開催している研究大会が主な活動内容であるが、令和2年度は開催せず、講演のみオンラインで行った。リクルート『キャリアガイダンス』編集長山下真司様による講演は、「新学習指導要領と今後のキャリア教育の在り方について」と題し、編集長としての深い部分まで掘り下げた考察を聞かせていただいた。今後のキャリア教育の在り方について真剣に考える機会を与えていただいた。



## (5) 岡山県

本県では、全県的な高等学校進路指導の研究組織として、岡山県高等学校教育研究会進路指導部会・岡山県高等学校進路指導協議会がある。公・私立の高等学校（全・定）と特別支援学校、合わせて104校が加盟する大きな組織である。

主な行事としては、6月上旬に開催している「総会」、1月下旬に開催している「進路指導研究大会」がある。また、一年間の研究のまとめとして、部会誌「進路指導」を年度末に刊行している。

まず、総会であるが、1年間の活動に関わる審議に加えて、毎回、外部講師による

講演を行っている。平成30年度は、「2020年大学入試改革のゆくえ～国立大学は何を考へどのように動こうとしているのか～」香川大学 山崎裕正氏、平成31年度は「大学入試改革～社会の変化から考える～」と題して(株)さんぼう大阪支社 佐藤裕子氏と、毎回各界から講師を招き、その時々課題を共有している。進路担当者の貴重な研修の機会ともなっている。

しかし残念ながら、昨年度、今年度は全県から一堂に集まることが難しく、議事のみ書面審議とし、講演は実施できていない。

次に研究大会であるが、毎年、「進路学習」、「就職指導」、「進学指導」の3領域について輪番制3校による研究発表が行われる。また対応する3つの分科会に分かれての研究協議が行われる。分科会では、その時々諸問題について意見交換を行い、それぞれの学校に持ち帰って利用できるヒントが詰まっている会である。

そして1年間の取り組みをまとめた部会誌「進路指導」を年度末に発行している。総会での議事や講演内容、研究発表大会での発表や研究協議の内容等1年間の研究・報告が掲載される。加えて部会の行っている進路調査も掲載している。令和3年度は、2年生の生徒を対象とした進路意識調査を行った。調査対象は3年生→2年生→1年生→進路指導主事と、4年間で調査内容が一巡するようにしており、前回調査との比較・分析も行っている。以上概略であるが、部会の諸活動が各校の進路指導担当者同士をつなぐ機会として機能している。